

短歌

石井緑線

信濃の高原に遊びて

白樺をシオリにせんと妹等は手剥ぎては見ていじらしくも捨つ。
みすゞ路の高き賤家の庭の端に入陽に淡く月見草みゆ。
山里に尾花亂れていつしかに秋訪れし寥しさを知る。

夕暮の鐘を聞きて

はるけくの故郷憶ふ窓の邊に一入耐へぬ暮れ方の鐘。
暮れ方を静かに告ぐる梵鐘にさびしからずやと友もさゝやく。